

福島県大熊町とオンラインで結んで会ったHANDSの藤本真一代表理事(左)ら=22日午後、神戸市役所(撮影・後藤亮平)



# 「希望の灯り」福島・大熊町へ

## 神戸との縁、10カ所目

## 東日本大震災10年、亡き人追悼

東日本大震災の発生から10年を機に、神戸・三宮の東遊園地にともるガス灯「1・17希望の灯り」をモデルとした灯りが今月末、福島県大熊町に建立される。神戸を含め国内外10カ所目という、同町の島和広副町長は「亡き人への追悼とともに、町を離れた住民がこの地に戻る一つのよりどころとなれば」と話した。

阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼する希望の灯りは2000年、県内各地と46都道府県からの種火を一つにして生まれた。東日本大震災後は岩手、福島県で灯りをモデルにしたガス灯が建立され、神戸からの火が分灯された。

大熊町は復興計画の策定過程で神戸市と縁があり、町本庁舎前に「追悼の碑『希望の灯り』」の設置を決めた。高さ1・7メートル、幅45センチ、奥行45センチで、石の台座上に4面のガラスケースで発光ダイオード(LED)の灯りを囲う。各面には町の過去や未来をイメージした絵が入り、脇のモニUMENTには住民代表が震災10年に向けて書いた「思い」の文が刻まれる。

22日、神戸市役所と大熊町役場をつないだオンライン会見で、島副町長は、原発廃炉作業の関係者を含めても人口の1割未満の約860人しか住んでいない町内の現状を説明。NPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り(HANDS)」の藤本真一代表理事は「被災した方々が少しでも前を向けるように寄り添うことが、私たちにできること」と応えた。

3月1日には東遊園地で分灯式があり、東日本大震災10年の3月11日は灯りの除幕式が開かれる。(竹本拓也)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

ふくしまけんおおくままち こんりゅう きぼう あか なに

①福島県大熊町に建立される『希望の灯り』は何をモデルとしていますか。

しまかずひろふくちようちょう ついとう ひ もくてき はな

②福島県大熊町の島和広副町長は追悼の碑『希望の灯り』を建立する目的を何と話しましたか。

こうべ つく

③神戸の「1・17希望の灯(あか)り」はどのように作られましたか。

かくめん きざ

④大熊町の追悼の碑『希望の灯り』の各面には何が刻まれていますか。

ほうじん はんしんあわじだいしんさい

ふじもとしんいちだいひょうり じ

⑤NPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り(HANDS)」の藤本真一代表理事が

わたし

私たちにできることと話したことは何ですか。